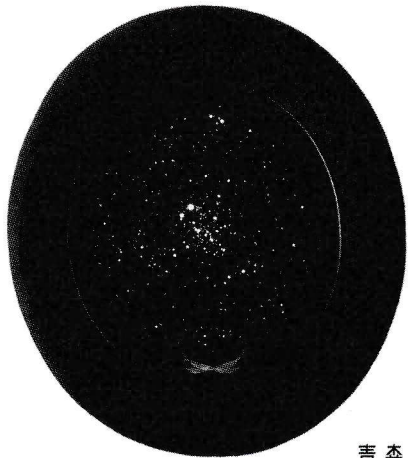


MIYAZAWA

県民参加型演劇



出演者募集

応募締切 2007年5月31日(木) 会費

公演日 2007年6月30日(土)・7月1日(日) 八戸市公会堂文化ホール(八戸市公民館)
2007年7月7日(土)・8日(日) 青森県立美術館

森立術
青森県美術館
ARTS MUSEUM OF AOMORI

でも頑張って一緒に付き合うか」という態度を忘れた世界には相変わらず紛争が絶えない。世界はとも子供化しているのである。

宮沢賢治の世界はこれまで度々取り上げられ、人口に膾炙している。「宮

Stage

演劇空間スペースベン

県民参加型演劇「MIYAZAWA」始動！

何故、MIYAZAWAなのか。 作／演出／青森県立美術館 芸術総監督 長谷川 孝治

太宰治・寺山修司に続けて宮沢賢治の世界を描く義務があると思っていたのは、県民参加型演劇スタート以前のことだ。

それは世界の圧倒的な「不対称性」に疑問を持っていたからである。

持てる者と持てない者の間に横たわる圧倒的な格差は歴然と世界にあり、とりあえず食える日本に住んでいて、とりたてて問題意識を持たなければ八方丸く収まってゆつたりと死を迎えることができるのだが、それでは芸術を志す身としての義務はいったいどこへ行っただという話になる。

敵か味方かはつきりしない、白黒つけようじゃないか：世界は単純な選択肢を要求している。しかし、人間というのは多様である。そして、芸術の使命はその「多様性」を擁護することである。

宮沢賢治のコスモロジー（この場合、死生観が最も強い意味）には人間と動物、人間と自然の区別はない。そこにあるのは「共生」への願望である。「隣の奴はちょっと気に入らないが、ま

県民参加型演劇『MIYAZAWA』 シ ノ プ シ ス

リストラされ家族や友人からの信頼も失った中年の男が一人、いましも北の街の駅に降り立った。男の唯一の美德は「どんな時にも笑顔と冗談を忘れない」というもので、それはどん底の状態にある現在も変わっていない。

男には青春時代に夢中になったものが二つあった。ひとつは宮沢賢治の「かたくて静謐で透明な詩世界」、そしてもうひとつは正岡子規の「病床の宇宙」であった。

学生時代にそれらの詩や俳句に親しんだ男は、結婚し就職すると家族を守るために、あたかも自分には「詩」も「俳句」もなかったかのように仕事だけにのめり込み、いつしか本を読まなくなり休日の映画にも行かなくなり、絵の前でふと立ち止まって自分の心のさざ波を眺めることも、音楽に身を浸すこともしなくなっていた。

「北へ行こう」関西に住む男にとって、賢治のコスモロジー（宇宙の構造／死生観）は北の空にしかなかった。出張ではなく「旅」に男は久しぶりに出発したのだった。

古びた旅行鞆、男はその鞆を持ってか

つては目的を定めない旅に出たこともある。男は久しぶりにその鞆の中のポケットを開ける。中から出てきた手紙の封はまだ切られていなかった。差出人を見ると、男の胸に深い後悔と甘酸っぱい期待感が同時にやってきた。

それは、22才の彼が自分へ宛てた手紙だったのだ。

彼はそっと手紙の封を切る。失われた23年間でやってきたとき、彼はMIYAZAWAとMASAOKAの世界に住み始めていた。

県民参加型演劇「MIYAZAWA」

■公演日・会場

2007年6月30日(土)・7月1日(日)
八戸市公会堂文化ホール
(八戸市公民館)

2007年7月7日(土)・8日(日)

青森県立美術館シアター

■ワークショップ+オーディション

2007年5月5日(土)・6日(日)
13:00～ 八戸市エスタシオン 2F



長谷川孝治氏

沢賢治」という字面を見るだけでそのイメージは完成してしまふと言っても過言ではない。

どこまで従来の賢治像を更新できるか、それが私に課せられた使命である。

5

～演劇空間 スペースベン～

月の Friday Amusement Negative Shop

■5月4日(691回)

【タペリ場 crossingcafe file.58】

自称クリエイターの悩み相談室「不惑に向けて」

■5月11日(692回)

【タペリ場 crossingcafe file.59】

～アートとカルチャーのボーダー～その6

■5月18日(693回)

【タペリ場 crossingcafe file.60】

自称クリエイターの悩み相談室「妥協と挑戦」

■5月25日(694回)

【タペリ場 crossingcafe file.61】

～アートとカルチャーのボーダー～その7

※特別番組以外全て午後7時30分～、料金／一般500円 高校生以下100円
※料金改定しました！ 高校生以下は、特別番組以外100円でご覧になれます。
チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

■演劇空間 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎ 0178-43-9876
FAX 050-3588-8350

tsutomu_tanaka
☎090-6025-0990
HP <http://spaceben.com/>
Eメール owner@spaceben.com